

兼平 勉(かねひら・つとむ)

1、プロフィール

歌人。「むつび短歌会」・「新泉」で作歌。「青森古今」・「古今」入会。森田短歌会創立。「飛聲」創刊参加。悠短歌会創立、季刊誌「悠」発刊。日本歌人クラブ会員。

<生没>

1927(昭和2)年12月25日 ～ 2014(平成26)年6月19日

<代表作>

歌集『水の連鎖』(第2回青森県文芸賞受賞)

『兼平 勉歌集 未生の時間』(東奥文芸叢書 短歌12)

<青森との関わり>

鱒ヶ沢町に生まれる。青森師範学校在学中に作歌。卒業後、青森県内で中・小学校教員。悠短歌会会長。

2、作家解説

兼平勉は、昭和2(1927)年に鱒ヶ沢町に生まれる。昭和19年に在学していた青森師範学校でアララギ短歌史の講義を受ける。斎藤茂吉・長塚節が好きだった。昭和20年に鱒ヶ沢町むつび短歌会(鎌田純一)、青森師範学校学生短歌会「新泉」(鹿児島寿蔵)で作歌を始める。昭和23年3月に卒業。昭和63年3月まで青森県内で中・小学校教員として勤務する。鳴沢小学校校長にて定年退職。

昭和34年、「青森古今」(鎌田純一主宰)に入会。10月に「古今」主宰の福田栄一が青森短歌大会の特別選者として来青した際に会って入会を許される。福田たの子にも師事。昭和35年12月9日に結婚。「青森古今」の印刷(ガリ版)・製本を妻の一子と共に担当する。昭和37年に長女しおり誕生。昭和40年に二女あゆみ誕生。昭和56年に森田短歌会を創立。平成7(1995)年に「飛聲」(西村尚)創刊に参加。平成9年に『森田村村制百年史』編著。平成10年に森田村文化賞

受賞。平成 13 年より 11 年間、五所川原市エルム文化センター短歌講師。平成 15 年に妻の一子と共に悠短歌会を創立し、季刊歌誌「悠」を創刊。平成 17 年 12 月 20 日に第一歌集『水の連鎖』（短歌研究社）飛聲歌集第十四編を上梓する。昭和 35 年から平成 15 年までの「青森古今」・「古今」・「飛聲」に発表した 565 首を収録している。第二回青森県文芸賞受賞。同年、青森県歌人功労賞受賞。

「飛聲」同人、悠短歌会会長、日本歌人クラブ会員、青森県歌人懇話会理事、青森県文芸協会理事。青森県短歌大会（東奥日報）選者、青森県短歌賞選考委員、青森県内各地短歌大会選者。

平成 26 年 6 月 19 日、心疾患にて逝去。同年 12 月 10 日に東奥文芸叢書 短歌 12『兼平勉歌集 未生の時間』（東奥日報社）を遺歌集として発刊する。

3、資料紹介

○『水の連鎖』

図書

2005（平成 17）年 12 月 20 日

220mm×155mm

ヒューマニズムを基調として思索し、自然とリンクしている生命体を抒情的に描写している。人間も地球も光に包まれている。戦中戦後の時代性と津軽の風土性が反映されている。所収の一首「ふるさとは雪のまほろば澄み透る限りを地球の灯りまたたく」。